

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

2000.7.24 No.5170

2000
年度

動労千葉を総会も開催 支援する会

DC会館において盛会に (7/15)



【写真】2000年度「動労千葉を支援する会」総会の最後には、参加者全員でスクラムを組んで動労千葉の組合歌「俺たちは鉄路に生きる」を合唱し、国鉄闘争=1047名闘争の勝利と動労千葉を支援する会運動の発展に向けて、全力で闘いぬくことを誓い合った。

二〇〇〇年度動労千葉を支援する会総会が、七月十五日、DC会館で開催されました。国鉄ストライキ基金運動として始まった支援運動は、八七年に恒常的な動労千葉支援運動としての「動労千葉を支援する会」が発足し活動を続けてきました。われわれはこの二十年間、自らの闘いと全国の支援を受けて闘い続けることができました。新会館の竣工もこの闘いの成果であるといえます。

闘争団の仲間が 決意表明

支援する会総会は、一部の総会と二部の懇親会にわかれて行なわれました。一部の総会は、千葉労組交流センターの和田さんと自治労横浜の庄山さんの司会で進められ、和田さんの開会あいさつで始まりしました。連帯のあいさつを国鉄闘争団の仲間から受けました。国鉄闘争団の仲間は、「七月一日の国鉄臨大は、闘争団・家族と組合員の闘いで休会になった。本部に反省の時間を与えた。昨日、東日本のエリア大会があった。七・一の闘いはKO勝ちではない、判定勝ちだ。続大会から定期大会へ今度は完璧なKO勝ちをするまで闘う。それなくして国鉄闘争の勝利はない。清算事業団解雇の責任は一〇〇%JRと国鉄にある。『責任なし』は受け入れられない。敵は権力とJRだ。闘争団は意気

軒高である。やればできると思っているし力はまだまだある。国鉄も動労千葉も目標は一緒、共に闘ってください」と熱い思いで訴え、全員の拍手で確認されました。

国労守ったのは 闘争団と組合員

つづいて動労千葉からの提起として中野委員長から「国鉄闘争勝利の展望」と題して行なわれました。

内容は、二〇〇〇年七月一日に何が起こったのかということ。で国鉄臨大が国労の変質・解体を狙う国家権力資本との攻防であったこと。国鉄闘争団等の英雄的決起=演壇占拠により「四党合意」を粉砕した、これは計り知れない歴史的、階級的、決定的意義があること。消耗しダメージを受けたのは政府・運輸省であり、元氣になって活性化しているのは国労の現場組合員であること。

次に、「四党合意」とはこの数年の国労中央本部の一連の流れの中からでてきたものであり「四党合意」は、闘争団・国労の変質・解体攻撃である。「四党合意」を認めることは首切りを認めることであり、臨大は首きり容認派と絶対反対派の対立であったこと。つまり臨大は権力に強制されて開催された全国大会であったこと。そして、この大会で国労を守ったものこそ闘争団と現場組合員の闘いであったこと。今困っているのは敵のほうであることを改めて確認

しました。

動労千葉も、闘う労働運動の新潮流形成の闘いの前進と国鉄闘争勝利は密接不可分であり、十一月労働者集会の五千名結集と国鉄闘争勝利へ全国連鎖集会の実現と「支援する会」を再編強化しよう提起しました(講演の詳しい内容は後の日刊動労千葉で掲載します)

顧問弁護団の清井弁護士から連帯のあいさつを受けた後、支援する会事務局から支援する会運動の経過と方針が提起されました。

支援する会の 強化かちとろう

続いて二部の懇親会に移り、乾杯のあと参加した各産別の労働者、団体よりの発言を受けました。ほとんどの発言者が七月一日の国鉄臨大にふれ、「四党合意」は国労の解体と闘争団切り捨てにつながることであり、闘争団と共に闘おうとの訴えが続きました。

最後に、動労千葉の組合員が前に並び、おのおの自己紹介を兼ねて決意の表明を行いました。閉会のあいさつの後、組合歌合唱と団結ガンバローで支援する会総会は終了しました。

ハ・ヒロシマ大行動へ
代表団を送ろう!

※派遣カンパの取り組みを!
(二人、一〇〇〇円目途)

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!